

平治宿・行仙宿の巡回

◇実施日 平成27年01月04日(日)～5日(月)晴時々曇り
◇参加者 4日；梶野照雄、4日～5日；村吉光夫 計2名

午前6時15分に堺市を出発、吉野の大滝トンネルを越えたあたりから庄雪路になり、下北山村西原まで続いた。時速40km以下の走行を余儀なくされ、池郷林道ゲート到着まで25分ほど余分にかかってしまった。

午前9時45分に歩き始めるが、100mほど行ったところで意外と雪が深いので、スノーシューを取りに車まで戻る。

林道の積雪は、深い所で20cm、全く積雪のない所も交互にあらわれるが、スノーシューを外すのが面倒なのでそのまま歩き続ける。

持経宿手前の尾根の崩落を木組みで補修した所を無理やり登ってショートカットしてみた。(帰りに林道を歩いてみると、約15分早くなることが判った)

平治宿に到着後、12月14日に空にすることを忘れていたポリタンを確認すると、案の定完全に凍っていた。ストーブの傍に置いてみたが、全く溶ける気配がないので、蓋をあけた状態で元に戻す。室内3℃。

棚に2本あったガスボンベを振ってみたら、かなり減っている様だった。平机の脚のサイズを採寸、昼食後持経宿へ向かう。持経宿に到着し平机3脚のサイズを測る。マキは12月に作った時と同じ量があり、この間の利用者は無いようだ。

写真を撮ろうと戸を開けると、首輪に発信器を付けた犬の姿が。12月14日にもいたあの犬だ。室外1℃。



平治宿



持経宿



12/14見た1.5の猟犬

平治宿まで続いていた足跡もこの犬のものに違いない。きつと迷っているのだと思うが、20日間も何を食べて生きていたのか？(4日に「迷い猟犬がいる、猟犬の写真があるので飼い主が見れば直ぐわかるので役場等に連絡乞う」のメール送信を川島が5日に受信。川島は下北山村産業建設課に転送依頼。6日に産業建設課から面倒な依頼であったが「5日に飼い主に戻った」との返信があり梶野氏に転送。梶野氏は翌日、飼い主によって無事保護されたことが判る)

20分ほどで持経宿を出発、林道を歩いて小屋を少し過ぎた所で車が上がってくる、村吉さんだった。車を止めて10分ほど話をする。今夜泊って、煙突掃除とマキ割をするとのこと、「今晚泊っていかないか？」とお誘いを受けたが、お断りをしてゲートまで急いで下りた。まだ明るいうちに車まで戻れたが、林道途中から暗くなり、下池原まで来ると真っ暗になった。国道に出たら何かおかしい音がするので停車して足回りを確認すると左後輪がパンクしている。どうやらパンクした状態で1km以上走ったようだ。スペアタイヤを外すのに手こず

り、タイヤ交換で約30分のロス。暗い林道は慎重運転が肝心と肝に銘じた。帰ってからタイヤの状態を確認したが、接地面に約2cmの尖った石が垂直に突き刺さり、タイヤの内側に6mm飛び出していた。



林道で遭遇した村吉車

行動タイム

堺市 6:15→池郷林道ゲート 9:45→12:50 平治宿 13:50→15:00
持経宿 15:20→16:10 村吉車→16:47 林道ゲート (記 梶野)

村吉氏がホームページ掲示板に投稿文を記載

夜一人、今まで囲炉裏はけむたかったが、これからはストーブがあるから快適と決めつけていたが、ちよつと当てが外れた。ストーブの中は順調に燃えているのに、小屋内の温度がなかなか上がりません。2℃から1時間たっても5℃。何故?だろう。小屋に隙間が多いからか、ストーブと言っても形は焼却炉なので放熱が少ないのか。

寒い寒いと言いながらも、月明かりに照らされた雪景色は夜なのに明るく、心地の良い夜でした。

猟犬を捜しに来た男性が小屋に来る。5頭放したら2頭しか戻って来なかったとの事、たまたま1頭が現れたが骨と皮だけにやせていて、エサも少ししか食べられないくらい弱っていて、男性が連れて帰った。単3単4電池補充。

村吉氏は、12月14日・迎春準備に持経宿に来られた時に、煙突掃除道具があると思っていたが見当たらず、火事になる心配のある煙突掃除が出来なかった。

梶野氏は12月22日・迎春準備に行仙宿に来られた時に、丸太で食台を高くしているのを見て、アルミ加工の脚を作製すると言って下さったが、行仙宿は一応処置済みなので、むしろ平治宿・持経宿の食台を直す方が良いと話した。

両氏とも気がかりな事、困った事に自発的・積極的に行動して下さり本当に有難く感謝致します。

暇とか遊びとか言っていますが、これも一種の利他行であり、ボランティア精神であり長続きする秘訣だと思います。いずれにしても両氏の行動を高く評価したい。

しかしながら積雪等のリスクの高い時は、単独行を出来るだけ避け、会友への連絡と行動を共にする様にして頂きたい。

(記 川島)